

こんな時代だからこそ「今を生きる」

中洞 三雄



(リーグ戦後楽園飯店中洞監督)

監督として、ボクシングと関わってこられたことに心から感謝している。

今となれば練習から試合まで全てが最高の思い出だ。若いときには、夢と希望を追いかけて突っ走って来ましたが・・・いつ頃からだろう年齢を増すごとに、過去を振り返る日が増えてきたような気がする。

あれから40数年、まさかこんな事態が起こるとは思いもしなかった。

この現実を受け止めなければならぬのか「新型コロナウイルス感染症」しかし、それが現実なのだ。関東大学リーグ戦の中止、インターハイの中止、高校生ボクサーたちの「目標」「希望」「夢」を全て奪い取った「コロナ」が憎い。

全国の高校生達と同じ思いで悩み苦しんでいることと思うが、君たちは諦めてはダメだ。必ず闘える時がやってくる、それを信じて今、やれる全てのことをやろうではないか！生き抜けそしてもっと強くなれ！

まだ、出会ったことの無い全国のライバル達、いや、全国の仲間達が同じ思いで目に見えぬ敵と戦っているのだ、負けるな。

現実とは、今一瞬だけが現実であって、その一瞬・一瞬が積み重なって人生となっていくのだと思う。過ぎ去った過去は、どんな人間でも取り返すことも変えることも出来ない。

世界にたった一人の自分のために今一瞬を精一杯生きようではないか。

そして、自分の世界を作ろう。過去に後悔という物を残さないように、未来に不安を抱かないためにも「今を生きる」そして「夢」を諦めないこと、「夢」は、自分が諦めた時に消えていくものです。全国の仲間達と共に「夢」を追い続けてほしい。

1977年(昭和52年)8月7日、岡山県立総社高校体育館とても熱い夏だった。

岩手出身の私がそう感じたのだろうか?・・・いや、そうでは無い、確かに岡山は暑かった。

第31回全国高等学校ボクシング選手権大会 決勝日・・・外の気温より熱い戦いが繰り広げられた。ライトフライ級に出場した私は、決勝で敗れたが、まさしく青春だった。

ボクシングの魅力に取り付かれ大学に入学、ボクシング中心の学生生活を送りながら、関東大学ボクシングリーグ戦(後楽園ホール)・全日本大学ボクシング王座決定戦に出場、国民体育大会成年の部10年連続出場、大学卒業後も、(財)山梨県県民スポーツ事業団に勤務しながら、28歳までボクシング選手として活動した。

引退後、現在に至るまで拓殖大学のコーチ、監督

大好きなボクサー達よ、ボクシング競技を通じて素晴らしい思い出を作り、悔いの残らない人生を送ってもらいたい。

そして、人を思いやる心と優しさを持った人間に成長することを心から願っている。

以上



中洞 三雄 (なかほら みつお)

経歴

1959年 岩手県宮古市生まれ

学校法人 拓殖大学 八王子学生生活課勤務

拓殖大学ボクシング部 監督

主な戦歴

東北大会 LF 級優勝

インターハイ LF 級準優勝

関東大学リーグ戦 17戦出場15勝2敗 (王座含む)

国民体育大会成年チームとして10年連続出場 (3回優勝)

日本代表として国際試合多数出場

指導歴

モスクワ世界選手権大会・北京アジア大会・バルセロナオリンピック大会等日本代表コーチ